

注意

前年度の入試情報となります。
新しい情報は随時公開いたします。

You, Unlimited



RYUKOKU
UNIVERSITY

龍谷大学
社会学部

2024

Faculty of

Sociology



Hands-on Approach

「現場」を感じ、「現場」で学び、
「生きるしあわせ」を創造する

自分と社会をつなげて考える力を身につけるため、社会学部ではフィールドでの学びを重視しています。地域のイベントへの参加や地域の交流促進など、さまざまな現場を実際に体験することで、自身の関心や視野を広げていきます。そして自分自身が抱える課題解決をとおして、ともに生きる喜びやしあわせを考えられる人の育成をめざしています。

社会学科

- 現代文化系
- グローバリゼーション系
- 地域・環境系
- 臨床社会学系

現代福祉学科

- ソーシャルワーク科目群
- 社会貢献科目群
- 福祉教育科目群

「現場主義」
で学ぶ3学科

コミュニティマネジメント学科

- コミュニティデザイン系科目群
- ライフデザイン系科目群
- ジャーナリズム系科目群

2025年4月
社会学部は深草キャンパス(京都市)へ移転します。
詳しい内容はP09の「社会学部の取り組み」をご確認ください。

テーマを自ら定め、 事前調査から現地取材まで行う

社会調査実習

東日本大震災の被災地を訪ね、今後の震災における対応策を考える

この授業で私は、東日本大震災に関する事前調査から具体的な調査計画の立案までを手がけました。被災状況や震災の概要について下調べを重ねてから被災地を訪問したものの、当事者の方々が語る当時の心情は想像をはるかに超えており、現地を訪ねることで計り知れない問題が山積していることに気づきました。予測できない自然災害に見舞われた際の咄嗟の判断や、きわめて辛い経験をしたからこそわかる震災への対処法など深く考えさせられる内容が多く、まずは個人が災害に備える意識を高めていかなければならないと強く感じました。一人ひとりの震災への危機意識を呼び起こすには、国や自治体からの働きかけの効果も無視できません。しかし、被災後の心理的なケアや情報の正しい伝達方法、いかにして犠牲者を減らすかといった社会課題も、私たち一人ひとりが自分ごととしてとらえ考えていく必要があるものと思います。社会課題と対峙するに

は、自らが主体的かつ能動的に行動しなければならないと痛感すると同時に、事前準備の必要性や当事者の意見を聞く重要性についても、身をもって理解しました。質的調査だからこそ、文献や報道記事からでは読み取れない大きな気づきを得られたと、貴重なお話をしてくださった現地の方々に感謝しています。今回の取り組みを通じて培われた情報収集力や分析力を活かし、今後も真正面から社会課題と向き合っていきたいと思います。

Ryohei Takashima

高島 涼平さん
社会学科3年生
(大阪府 大阪桐蔭高等学校 出身)



社会調査実習

上野天神祭を運営する市民に取材し 祭りと地域社会の関わりや課題を探究

三重県の上野天神祭について、4ヶ月に及ぶ座学や文献調査を経て、現地で2泊3日でのインタビュー調査を実施しました。自らアポを取り、祭りの運営に関わる約20名の方々からお話を伺いました。運営体制や文化継承における工夫や問題点について何うなかで、少子高齢化という社会課題が浮き彫りになりました。SNSでのPRによる他地域との連携強化が課題解決の糸口になると考え、私は今、データ分析も行いながら報告書を作成しています。社会調査実習を通じ、教科書だけではつかみきれない社会課題の実情を探る手法を修得しました。同時に、コミュニケーション力や傾聴力、話を引き出す力も磨かれました。

Iroha Sakurai

桜井 彩葉さん

社会学科 3年生
(大阪府 大阪青凌高等学校 出身)



コミュニケーション論

コミュニケーションと社会秩序の関係から 現代における社会問題を分析する

現代社会における多くの課題は、社会を構成する人間同士のコミュニケーションに起因し、歴史上繰り返されてきた問題であると考えられます。この授業では、第二次世界大戦下の独裁政権が行った恐怖政治の成り立ちといった事例を精神医学の観点から読み解き、社会基盤のうえで人と人とのつながりがいかに形成され、どのような社会秩序をもたらしてきたのかを分析します。神経症を自己と他者のコミュニケーションの変容がもたらす病、社会問題を生み出す源ととらえ考察するなかで、現代における社会問題の見え方も変わってきました。このようにコミュニケーションについて深く学ぶことで、社会問題に対する多角的な視点が養われたと実感しています。

Shoma Moriyama

森山 将真さん

社会学科 2年生
(京都府 龍谷大学付属平安高等学校 出身)



学びのフィールドは全国 地域活性化などの プロジェクトに参画

コミュニティマネジメント実習

限界集落を訪れて住民と対話し 共に地域の活性化をめざす

限界集落とされる地域を活性化させる方法を学生たちで考え、実践しています。住民の方々の協力を得て、まちおこしにつながる企画やイベント、集落の魅力が伝わるマップの制作、SNSによる広報活動のほか、集落の仕事も手伝っています。害獣から作物を守る柵の設置や河川の清掃、公園の電飾の取り付けなどを体験し、地域の生活様式への理解が深まりました。大切なのは現地の方々との交流です。特に会話は、集落やそれを取り巻く社会について学ぶのに重要な役割を果たします。話の内容を地域の方や学生・教員と共有し、それを踏まえた行動をとると地域活性化の取り組みはより充実するからです。

実習をとおして、講義や資料だけではわからない現場の空気を肌で感じる事ができました。「限界集落は悲惨」という思い込みもあり、最初に集落を訪れた際の住民のみなさんの元気な様子がとても印象的でした。一方、過疎化や少子高齢化の現状が想像以上であったことも事実です。いずれにせよリアルな現実を体感し、物事への見方が大きく変わりました。社会はさまざまな要素が複雑に絡み合っているため、誰かが笑っている陰で誰かが泣いているかもしれません。誰もが過ごしやすくするには、一人ひとりが社会課題に関心を持ち、あらゆる可能性を考慮して問題に向き合う必要があります。その姿勢を育ててくれた実習の経験を、今後の研究活動にも活かしたいです。

Taiyo Fukudome

福留 太陽さん

コミュニティマネジメント学科3年生
(大阪府 阪南大学高等学校 出身)



コミュニティマネジメント実習

メディアによる社会問題のシェアが 当事者へのサポートにつながる

学生主体でラジオ番組を制作し、年6回放送しています。以前は自分の意見を主張することに苦手意識をもっていたものの、自分たちで企画から収録までを行うなかで情報を伝える楽しさを知り、協力して何かを成し遂げるチームワークも養われました。時事や趣味など多岐にわたる番組テーマのうち、特に印象深いのは「ヤングケアラー」の回です。京都府ヤングケアラー総合支援センターの方との対話を通じて、家事や介護を担う子どもの生活について学び、その負担は進路や就職にも影響を及ぼすという問題点を紹介しました。ヤングケアラーなどの社会課題を解決するにはこういった周知活動が大切で、当事者が安心して人に頼れる環境の整備にもつながると考えています。

Yui Wakisaka

脇阪 宥衣さん

コミュニティマネジメント学科3年生
(京都府立網野高等学校*出身)
※現・京都府立丹後緑風高等学校



アウトドアスポーツ演習

琵琶湖での水上スポーツを介して 地域社会に貢献する力を身につける

琵琶湖の豊かな水源を活用して水上スポーツを実践し、円滑な人間関係を構築する技能を獲得します。アウトドア活動を通じて人と関わり、他者への理解を深め、人間関係を築いていくプロセスを体感しながら、自然環境下における不測の事態への対処法も身につけていきます。自分の置かれている状況を素早く判断し、刻々と移りゆく周囲に対応しうる行動力が不可欠であるという視点で考えると、自然環境と地域コミュニティは似ています。私はこの授業をとおして、決断を繰り返しながら行動に反映させていく難しさとその重要性を学びました。この取り組みで身につけた柔軟な思考力と臨機応変な対応力を活かし、地域で活躍していきたいです。

Hiroto Kumagai

熊谷 大翔さん

コミュニティマネジメント学科4年生
(滋賀県立甲西高等学校出身)





社会福祉援助技術現場実習

若者のボランティアへの関心を高め 地域活動の担い手不足を解消する

枚方市社会福祉協議会で実習を行い、地域活動の担い手不足や高齢化について考えました。市のボランティアセンターの方にお話を聞いたところ、若い世代がボランティア活動に寄せる関心や参加率はとても低く、高齢者に頼らざるを得ない状況にあるそうです。ボランティア活動は、高齢者が自分の生きがいを見出すのに適していますが、高齢者に偏ってしまうと将来的に若者の活動への参加率が減少していくかもしれません。市では「ちょいボラ体験」を実施し、若者がボランティアに関わる工夫がなされていました。このような機会を増やし、若い世代の関心を高めていければ、きっと地域活動の担い手不足も解消されていくでしょう。さまざまな現場での様子を見聞きし体験するなかで、見逃しがちな社会課題を見つけることができました。また、今回の実習を通じて、潜在化した課題を抱えている人を発見するには、地域住民同士のつながりと相談先であるコミュニティソーシャルワーカーの存在が重要だとも気づけました。今後も身近な社会課題に目を向け、自分なりの解決策を見つけていければと思います。

Ayumi Shirokoji

白小路 歩実さん

現代福祉学科3年生
(大阪府立香里丘高等学校出身)



福祉施設やNPOなどの
多様な現場で学び、
福祉の実践力を磨く

精神保健福祉援助実習

当事者を知って学ぶ姿勢が 差別のない社会につながる

精神保健福祉援助実習では、精神障がい者を支援する精神保健福祉士の役割や事例について講義で学んでから、医療機関や福祉事業所の現場で実習を行います。病院では実際に患者さんと向き合いながら多職種連携の重要性を理解し、事業所では利用者や支援者の方々からリアルな声を聞き、生活・就労のサポートの難しさや奥深さを実感しました。それらの体験から学んだのは、「知ること」の大切さです。障がいへの偏見は無知から生まれますが、当事者の方を詳しく知ることによって、偏った先入観をなくすことができます。この実習をとおしていろいろな人と関わり、多様性のある社会を生きるために必要な姿勢が身についたと思います。物事に対してもより柔軟に考え、行動できるようになりました。

Kanami Yokota

横田 香菜未さん

現代福祉学科 4年生
(滋賀県立登川高等学校 出身)



基礎ゼミナール

「未知」を「既知」に変え 偏見や差別のない社会を

障がい者の社会参加を支援する「まちかどプロジェクト」(社会福祉法人 共生シンフォニー)を見学しました。実際の活動に触れ、職員や利用者の方々にお話を伺うことで、社会福祉士をめざす自分が学ぶべき内容や将来のイメージが明確になりました。特に勉強になったのは、社会における障がい者への理解度アップの必要性です。まちかどプロジェクトは小学校で講演も行っていて、子どもたちは当事者のみなさんと触れ合ううちに、一緒に楽しく遊ぶようになったそうです。そのような交流をとおしてお互いを理解し合う取り組みが重要だとわかりました。基礎ゼミナールでの学びは、今後さまざまな社会課題の解決を模索するうえで必ず役立つと思います。

Hiroki Okamoto

岡本 祐季さん

現代福祉学科 1年生
(和歌山県立耐久高等学校 出身)



Hot Topics

社会学部の取り組み

2025年4月、社会学部は深草キャンパス（京都市）に移転します。

2024年4月入学生のみなさま 現行の3学科体制のまま、2年生から深草キャンパスに通学します。

	1年次	2年次	3年次	4年次
2024年4月入学生	瀬田キャンパス	深草キャンパス		

2025年4月以降入学生のみなさま 移転と同時に3学科体制から1学科となる予定で、1年生から深草キャンパスに通学します。

	1年次	2年次	3年次	4年次
2025年4月以降入学生	深草キャンパス			

社会共生実習

「社会共生実習」は、「学生と地域との協働を通じた社会共生」をテーマに、社会学部の全3学科が共同で運営する実習科目です。各学科の教員がそれぞれの専門知識やフィールド、人的ネットワークを活かしたオリ

ジナルのプロジェクトを提供しています。地域の多様なフィールドで、住民や関係団体の関係者と交流・協働しながら、地域の課題の発見、解決への取り組みを実践的に学びます。

1 地域エンパワねっと・大津中央

滋賀県大津市中心市街地の方々と連携し、地域課題の発見と解決に取り組みます。実際に市街を歩き、地域住民のみなさんにお話を伺い、学生自ら課題を見出します。そして一緒に話し合いながら企画を立て、地域住民のみなさんと力をあわせて課題を解決していきます。大切なのは、地域の方々とのコミュニケーション。立場や考え方が違う人と対話し協力するなかで、新たな気づきを得られます。その感動を味わえるよう教員もサポートします。「協働のデザイン」の体験は、社会で必ず役立つはずです。



2 地域の情報発信 レク龍プロジェクト

「滋賀県レクリエーション協会」ご協力のもと、広報誌の作成や地域イベントの運営などを実践し、広報の重要性を学びます。記事の取材や執筆、編集、発行、SNS・ホームページでの情報発信を行うほか、過去には大津市真野浜水泳場「フロート（浮き輪）レース」も企画。学生各々が役割をもってフォローし合うことで主体性と協調性が養われます。多業種の方と連携して事業に参加することで社会の仕組みも理解でき、パソコンソフトの活用や写真撮影、Web管理などのスキルも身につきます。



3 文化財を 観光資源に 活用するには？

文化財の強みを観光資源としてマネーを創出するには何をすべきか。「社会共生」の概念から、その方法を導き出すために、調査・研究フィールドの中核を大津市に定め、当市が有する文化財を対象に研究しています。具体的には、行政や民間企業、NPOなどと連携し、実際に当地の文化財を訪ね歩くなかで、文化財をリソースとして活用する方法や、各組織との連携のあり方を考察します。また大津市の比較対象として、滋賀県内や京都市内の各地域に調査を展開。現場主義に基づいて、課題解決に取り組みます。



4 農業と福祉の課題解決を同時に実践

滋賀県栗東市の農園「おもや」が取り組んでいる農福連携事業に参加。農福連携とは、障がい者の雇用機会拡大と農業の働き手確保をめざし、地域を活性化させていく取り組みです。学生は、おもやの畑や作業所でさまざまな作物の生産・出荷のお手伝いをしたり、くさつファーマーズマーケットにワークショップを出店したりしながら、農作業や障がい者福祉の現場を体験します。地域の人々と信頼関係を築きながら、自身の身体をつかって学び、農業と福祉の課題解決を楽しく実践していきます。



5 社会におけるお寺の役割とは？

お寺は実は身近な地域の中にあり、現在さまざまな社会活動の拠点となっています。この実習では、地域社会のなかでお寺がもつ可能性をお寺の社会活動に実際に関わりながら考えていきます。そして、学生自身がお寺の可能性をさらに広げる調査や活動を主体的に企画・実施します。学生自身の関心に基づいて新たなお寺の活動を探して参加したり、話を聞いてみたい人を見つけて講演を依頼したりもします。企画を立案・実施するなかで、他の学生や実習先の方と深くコミュニケーションを取り、協働する力が身につきます。



6 介護ツアーを企画し高齢者を元気に！

介護が必要な高齢者の生活問題に関する知識やプランニングの基礎的なスキルを学修するとともに、高齢者へのインタビューをふまえてツアーを企画します。現地の下見やプレゼンテーションを重ねてプランを決定し、参加者募集のためのフライヤーづくりや募集を経て、プランを実施。この実習を通じて、どのような配慮や介助があれば、介護が必要な高齢者の「出かける」ことを保障できるか、「出かける」ことを妨げている問題・課題は何かを検討します。コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力も身につけます。



7 在日コリアンの声を聴き、「共生」を模索

マイノリティの生きづらさは、それを生み出すマジョリティが責任を自覚し、歩み寄って解決する必要があります。この実習では、京都の在日コリアンの方々と交わり、「多文化共生まちづくり」の活動に取り組みます。当事者や支援者にお話を伺い、歴史的背景への理解も深めつつ社会問題をとらえ、学生自ら課題解決のプロジェクトを立案・実践します。多様な人との交流とおして、差別に抗って生きる人の力強さと、新たな価値観に出会うおもしろさを感じてください。



8 障がいのある子どもの放課後支援

「放課後等デイサービス」で週1回の実習を行い、障がいがある子どもとの関わり方と支援者の役割を実践的に学ぶとともに、子どもの側に立った社会のあり方を考えます。この際、「障がい」というカテゴリーで括らないことが重要。障がいの有無にかかわらず人の行動や心の動きには原因があり、その原因がわかればお互いに理解し合えます。実習を通じて子どもたちと触れ合うことで、他者に興味をもって歩み寄る姿勢が身につきます。相互理解が共生社会へとつながることを学んでください。



9 映像作品で自治体をPR！

映像作品をつかって自治体をPRする取り組みです。社会でも通用する動画制作のスキルを身につけると同時に、PRの本質を理解するのが目的です。映像作品を制作するにあたって重要なのは、人間関係の構築。「取材対象者とのようにして信頼関係を築くか」「チームのメンバーといかに協働すべきか」などを模索するうちに、コミュニケーション能力が鍛えられます。また、実際の映像制作に携わるなかで、自分たちの意図を的確に伝える方法も学びます。能力を実践で高める絶好の機会です。



4-Year Studies

学部サイト



4年間で何を学ぶ？

徹底した「現場主義」で、現代社会にアプローチ

学生自ら主体的にテーマを設定し、実習を重視した学びで理解を深める

社会学科

社会の問題を解明する企画立案能力をもつ人材を育成

フィールドワークを重視し、学生と教員が一体となって学修・研究活動を展開。身近な人間関係から地球温暖化まで、人間社会が抱える問題を考え、解き明かします。

現代文化系

グローバリゼーション系

地域・環境系

臨床社会学系



コミュニティマネジメント学科

地域社会を元気にする人材を育成

人が生き生きと暮らせる地域社会をめざし、住む人の視点に立つ、コミュニティリーダーを育成。地域の再生と活性化を「人」の力によってすすめていきます。

コミュニティデザイン系科目群

ライフデザイン系科目群

ジャーナリズム系科目群

3系共通の科目群



現代福祉学科

福祉の知見を活用し、社会貢献ができる人材を育成

複雑化する現代社会の福祉問題を解決するために、「人を支える思いをかたちにする」現代福祉学の学びを提供。学外におけるさまざまな実習を活用して、多様な領域で福祉の知見を活用した支援や社会貢献ができる人材を育成します。

ソーシャルワーク
科目群

社会貢献
科目群

福祉教育
科目群



	1年次	2年次	3年次	4年次
4年間の流れ	基礎を しっかり身につける	社会を見る目を じっくり鍛える	本格的な調査・実習に 取り組む	これまでの経験を卒業論文・ 卒業研究にまとめる
社会学科	現代文化系 グローバリゼーション系 地域・環境系 臨床社会学系	文化社会学 グローバリゼーション論 環境社会学 逸脱の社会学	コミュニケーション論 比較社会論 地域社会論 医療社会学 NPO・NGO論 家族社会学	カルチュラル・スタディーズ 社会意識論 民俗学 考現学 マスメディア論 社会人類学 エスニシティ論 近代社会史A・B・C 観光社会学 地域再生の社会学 社会運動論 都市社会学 スポーツ社会学
コミュニティマネジメント学科	コミュニティデザイン系 ライフデザイン系 ジャーナリズム系 3系共通の科目群	地域社会の再生・活性化のプロセスをデザインし、実践する人材を育成します コミュニティ論、質的調査法、量的調査法、地域と経済、シティズンシップ論、まちづくり論、地域発展学、地域と語り、ファシリテーション技法 など		
		一人ひとりの生活の質(QOL=Quality of Life)を向上させる人材を育成します 健康とライフスタイル、比較宗教論、地域保健学、日本の宗教論、クラブ活動演習A・B、運動心理学、寺院活動論、 地域スポーツ論、心と身体と宗教、メンタルトレーニング、はなし技法、仏教福祉活動論、スポーツマネジメント演習 など		
		ジャーナリズムをととして地域のネットワークづくりの担い手を育成します ジャーナリズム史、ニュースライティング演習、デジタルメディア論、報道写真入門、報道論、ジャーナリズム論、現代ニュース論、メディア表現技法、地域 社会とメディア、世界とメディア、ビデオ制作演習、メディアと倫理、メディアと技術 など		
		リーディングとライティングI・II、キャリアデザイン論、プロジェクトマネジメント、リスクマネジメント、キャリアプランニング など		
現代福祉学科	ソーシャルワーク科目群 社会貢献科目群 福祉教育科目群	ソーシャルワークを極める学び 社会福祉実践論、社会福祉原論、ソーシャルワークの基盤と専門職、ソーシャルワークの理論と方法、 高齢者福祉論、児童福祉論、障害者福祉論、地域福祉論、精神保健福祉制度論、精神医学と精神医療、 医療ソーシャルワーク、家族福祉論、貧困に対する支援、権利擁護を支える法制度、 ソーシャルワーク演習 など		社会福祉士・ 精神保健福祉士 国家試験受験資格
		社会貢献力を発揮する学び 社会イノベーション実践論、ライフコースとセーフティネット、生活問題論、支援コミュニケーション論、 社会貢献論、ボランティア論、社会企業論、コミュニティデザイン、地方自治論、社会政策論、居住福祉論、 多文化共生論、国際福祉論、国際福祉英会話 など		
		教育現場で福祉力を活かす学び 障害者教育総論、障害児支援論、障害者発達論、スクールソーシャルワーク、 手話コミュニケーション論、人間の心理と発達、臨床心理学理論と方法、 矯正教育学、青少年問題、教育実習 など		中学校(社会)・ 高等学校(公民) 教諭一種免許状

※上記科目群には、2年生以上から受講可能な科目も含まれています。

社会学科
<p>[取得可能な免許・資格]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中学校教諭一種免許状(社会) ● 高等学校教諭一種免許状(地理歴史、公民) ● 社会教育主事(任用資格)※ ● 社会調査士 ● 健康教育専門士 ● 本願寺派教師資格(受験資格) ● 社会福祉主事任用資格 ● 児童指導員任用資格 <p>[めざす職業・進路]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公務員(国家・地方)、NPO/NGO、行政機関 ● 放送・通信関係、マスコミ、広告関係 ● メーカーの商品開発・広報 ● 教員(中学校、高等学校)

コミュニティマネジメント学科
<p>[取得可能な免許・資格]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中学校教諭一種免許状(社会) ● 高等学校教諭一種免許状(公民) ● 社会教育主事(任用資格)※ ● 健康教育専門士 ● レクリエーション・インストラクター ● 本願寺派教師資格(受験資格) ● 社会福祉主事任用資格 ● 児童指導員任用資格 <p>[めざす職業・進路]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公務員(国家・地方)、NPO/NGO、行政機関 ● マスコミ、広告関係 ● 金融機関、メーカー ● 教員(中学校、高等学校)

現代福祉学科
<p>[取得可能な免許・資格]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 社会福祉士国家試験受験資格 ● 精神保健福祉士国家試験受験資格 ● 中学校教諭一種免許状(社会) ● 高等学校教諭一種免許状(公民) ● 社会教育主事(任用資格)※ ● 健康教育専門士 ● 本願寺派教師資格(受験資格) ● 社会福祉主事任用資格 ● 児童指導員任用資格 <p>[めざす職業・進路]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 社会福祉施設・相談センターなどのソーシャルワーカー ● 公務員(福祉職)、NPO、社会的企業 ● 教員(中学校、高等学校)

※卒業後1年以上の実務経験が必要。

Seminars

ゼミ紹介

社会学科 工藤 保則ゼミ



議論で得られる新たな気づき
卒業論文を進める手がかりも

田中 真優さん
社会学科 4年生
(滋賀県立草津東高等学校 出身)

工藤ゼミでは、現代社会・現代文化に関することなら何でも研究できます。ソーシャルメディアや若者のアイデンティティ、体罰問題などの多様な研究発表を聞き、新しい価値観を発見できるのが醍醐味です。私の卒業論文のテーマは、ネットアーティストの「歌手」。最初は手探りでしたが、ゼミのメンバーや先生の意見を参考にするうちに研究の見通しがつき、考察を深められました。また、ゼミでの議論をとおして、自分の考えを積極的に発言する姿勢も身につきました。



[その他のゼミテーマ]

- 日常生活・生活文化の実証的研究
- グループによる調査研究を通じて、リーダーシップと研究能力とを身につける
- 社会学の学説史の学びを基礎に、社会学の諸理論を研究する
- 人びとの人生・暮らし・生き方を形成する宗教、ジェンダー、教育、家族、文化への理解を深める
- 社会最前線の現場で活動する人の価値観にふれる
- 社会学的な知識を用いた「フィクション(物語)」の作成
- 犯罪など社会問題をテーマに、その原因と対処をふくめ、社会のあり方を問う
- 各学生が選択した研究テーマに対し、適切なアプローチ方法を選択し、学ぶことができるように指導する
- 音楽文化について考え、議論する力を鍛える
- 社会的想像力を涵養する
- 多様性を理解する
- まわしよみ新聞などグループワークを重視したゼミ

コミュニティマネジメント学科 坂本 清彦ゼミ



学科とゼミでの学びを活かし
商店街の活性化について研究

阿部 歩実さん
コミュニティマネジメント学科 4年生
(尼崎市立尼崎高等学校 出身)

1年次のゼミ演習で地元の商店街を取材したのをきっかけに、シャッター商店街の活性化について興味をもちました。坂本ゼミではグループワークや人前で発表する機会が多く、資料作成やコミュニケーションのスキルが培われます。卒業論文は、商店街活性化の成功事例として、兵庫県尼崎市の杭瀬商店街を取り上げ、「未来の商店街のあり方」についてまとめました。現地での聞き取り調査や先生から紹介されるプロジェクトへの参加で、積極性が身についたと実感しています。



[その他のゼミテーマ]

- 子どもに関する社会問題を子どもの権利という観点から考える
- 社会問題を多角的に考える
- 哲学カフェ方式で身近なテーマについて語り合う
- 興味のあることについて、読書と調査を通じて深く掘り下げる
- 自分で深く考え、表現するための思考の型を身につける
- 野外活動やレクリエーションを活用してコミュニティ活性化
- ニュースを徹底討論し、複眼思考を身につける
- フィールドワークを通じ、地域社会の有り様に触れる
- 新聞を読み、日本のことや地域の動きを理解する
- 農、町づくり、国際化、アイドルまで多様楽しく学ぶ
- スポーツで社会・地域・集団を元気にする
- 社会調査で地域の福祉問題に切り込む



現代福祉学科 筒井 のり子ゼミ



多角的な地域福祉の視点から
空き家の有効活用を考察する

室田 悠さん
現代福祉学科 4年生
(京都府 京都成章高等学校 出身)

福祉分野全体に関わりたいとの思いで「地域福祉」を専攻しつつ、幅広い福祉分野の知識が得られる筒井ゼミを選びました。ゼミでの学びや発表を通じて、主体的な姿勢や自己発信力が大きく向上したと感じています。卒業論文のテーマを「空き家問題の現状と課題ー空き家利活用法ー」に決めたのは、社会福祉実習で空き家調査に同行した際に、空き家の現状や近年の傾向を知ったからです。地域の居場所づくりに役立たせるなど、地域福祉の観点からも空き家問題をしっかり考察しました。



[その他のゼミテーマ]

- ソーシャルワークの視点で現代福祉を学び合う
- あらゆる人が自己実現できる福祉コミュニティづくり
- 少子高齢化社会での心身健康な生涯と社会福祉を探る
- 障がい者への支援と社会における障壁について考察する
- 児童虐待や貧困など子どもや若者、家族に関わる問題
- 社会から貧困をなくすために、私たちにできることは何だろうか？
- 「生きづらさ」を解決する社会イノベーション実践
- 子どもの権利を守るために社会に何が求められるか
- 介護が必要な高齢者への生活支援のあり方を考える
- 子どものねがいと発達保障を大事にしたインクルーシブ教育
- 社会保障と人権保障の課題

[卒業論文・卒業研究のテーマ例]

社会学科	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本社会におけるマスクの社会的機能ー同調圧力から見る国民性ー ● 循環型社会の実現に向けた日本の課題ープラスチック問題を題材にー ● 子どもの居場所としての放課後児童クラブ ● 男おひとりさまの生き方 ● アニメにおけるジェンダー表現の変容ー『劇場版ドラえもん』の事例を通じてー ● 京都市東山区における京町家のあり方ーあじき路地の事例からー ● 若者の装い、所持品の選択における自己と他者 ● 日本におけるシングルマザーの貧困とキャリアに関する一考察 	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ組織・スポンサー企業の「社会的取り組み」に関する研究ーインタビュー調査に基づくケース分析ー ● 転換期を迎える自主防災組織ー彦根市の取り組みから見る課題とこれからー ● 競技漫才に関する歴史社会学的考察ーM-1グランプリを事例としてー ● 日本社会における女性と「女学生の袴」文化ー女性の地位向上に向けてー ● 在日朝鮮人をめぐる制度的な「不可視化」と差別・偏見意識の「可視化」 ● 社会的圧力としての贅沢品消費ー中国人AさんとBさんへのインタビューをととしてー ● 日本の移民政策における<排他性>
------	---	--

コミュニティマネジメント学科	<ul style="list-style-type: none"> ● 交流拠点としてのコミュニティカフェーコミュニティビジネスの一事業としてー ● コミュニティFMの役割とはなにかー私たちの生活の中で生き続けるメディアー ● 聖地巡礼を促すアニメ作品の特徴 ● フィットネスクラブのイメージ向上に向けて ● メディアが創り出すアスリート像 ● 高齢者にとってのフィットネスクラブの存在意義 ● 非言語的コミュニケーションとしての目の動きや視線が会話相手との関係性に与える影響の研究 ● マスメディアの韓関係報道に関する研究ーホワイト国リスト除外問題をめぐる朝日新聞・朝鮮日報の報道と若者の相手国に対するイメージ調査を中心にー 	<ul style="list-style-type: none"> ● メディアリテラシー向上に関する研究ー人間関係や過去の経験及びメディアに接する態度との関連性ー ● LGBTQ+に対する理解と教育の持つ力 ● 「経験」としてのパパ活ー援助交際との比較を視野にー ● カントを中動的に読むー責任主体になるためにはー ● 経口避妊薬と緊急避妊薬の薬局販売を実現するにはーリプロダクティブ・ライツという観点からの避妊法ー ● 教員の働き方改革ー教育実習から見えてきたことー
----------------	--	--

現代福祉学科	<ul style="list-style-type: none"> ● 障害当事者の地域生活と支援者の役割ー制度の壁を前に障害当事者と支援者はどう行動したかー ● 日本におけるヤングケアラー支援のこれからーイギリスでの支援を踏まえてー ● 空き家問題の現状と対策ー空き家の利活用に向けてー ● 現代の遊具の現状とこれからの課題ーリスクとハザードの視点からー ● ボランティア運営によるジュニアサッカークラブの課題とその改善策 ● 通常学級における発達障害のある児童生徒への学校教育のあり方 ● 知的障害者の地域生活実現に向けて必要な支援の在り方 ● Uターンにつながる地域への愛着とはー消滅可能性都市「愛媛県伊予町」から考えるー 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの貧困対応における居場所の重要性 ● 児童養護施設退所児童へのアフターケアの課題ー自立援助ホームの意義を中心にー ● 依存の招く危険性と可能性、これから求められる社会変革ー依存症を抱えた人を、排除せず受け入れる社会ー ● 生前の孤立が生む社会的死ー孤独死ー ● 介護保険制度の限界からみる介護保険外サービスの必要性と課題 ● 日本の避難所の実態・展望ーTKBを充実させ、災害関連死をなくすためにはー ● いじめ・いじめ自殺を減少させるための方策
--------	---	---

Life after Graduation



Graduate's Interview

滋賀県立 伊香高等学校 教諭

Yuta Hazui

筈井 勇太さん

社会学科 2020年卒業
(滋賀県立草津東高等学校 出身)

Q. 大学時代にはどのようなことに取り組んでいましたか？

実際に地域の方々と話しながらまちづくりや地域活性化について一緒に考える、フィールドワークの授業が印象に残っています。教職課程では教師になるための専門知識や心構えを学びました。準硬式野球部では学生主体でメニューなどを考えて活動し全日本選手権にも出場できました。学修や部活動などを並行するなかで、時間を管理する力や、目標を立てて逆算し行動する力が養われたと感じます。

Q. 大学での学びは現在の仕事にどう活かされていますか？

大学での勉強や部活動で身についた「一度決めたらやり抜く」という習慣が、教職にも生きています。例えば現在、学級日誌にイラストを添えて返事を綴っています。生徒たちに学校生活を楽しく感じてほしくて、毎日頑張って書いています。そういったことの積み重ねが生徒との信頼関係につながるはず。何事も諦めなければ道が開けるという、大学で得た学びを踏まえ、「頑張るときはいつも今」の精神を日本の未来を担う若者たちに伝えていきます。

My Background



大学1・2年生

部活動ではなかなかメンバーに入れませんでした。そのときの悔しさが何事も頑張る土台になりました。今思うと大切な下積み期間でした。



大学3年生

投手としてリーグ戦登板も増え、大事な試合も任せられるようになりました。全国大会にも出場できて、最高に嬉しかったです。



大学4年生

初めて教壇に立つ貴重な経験でした。そこで出会った生徒たちと過ごした時間が、「教師になりたい」という夢を強く後押ししてくれました。



現在

社会科教師として3年生の担任や運動部の顧問を務めています。休憩時間は生徒と雑談したり相談に乗ったりして、時間を共有しています。



Graduate's Interview

株式会社 愛媛朝日テレビ 営業局コンテンツデザイン部 勤務

Kairi Beppu

別府 海里さん

コミュニティマネジメント学科 2021年卒業
(愛媛県立今治北高等学校 出身)

Q. 大学時代にはどのようなことに取り組んでいましたか？

マスコミ業界で働く夢を叶えるために、メディア関係の講義を中心に履修していました。実習では、社会課題や学生生活について、自分たちの経験や調査をもとにラジオを放送する取り組みが印象に残っています。番組の企画から制作まで学生主体ですべて行うことで、情報を発信する責任や、自分の取り組みで誰かを元気づけられる楽しさを実感できました。

Q. 大学での学びは現在の仕事にどう活かされていますか？

ジャーナリストとして第一線で活躍する先生方からリアルな話をたくさん聞けた大学時代の経験が、仕事にとても役立っています。先生とは今でも連絡を取り合い、社会情勢について意見を交換しています。現在私は、CM・番組制作やイベント運営などを手がけており、自らが制作したCMや番組がテレビで放送されたときの達成感は、言い尽くせないほどです。今後でもできることを一つずつ増やし、充実した日々を送りたいです。

My Background



大学1・2年生

実習をとおして沢山のひとと出会い、友人も増えました。発表時間直前まで資料を制作した経験も、良い思い出です。



大学3年生

ミスコンに出場させていただきました。多くの人に元気や勇気を届けられていたら嬉しいです。自信にもつながる、貴重な経験でした。



大学4年生

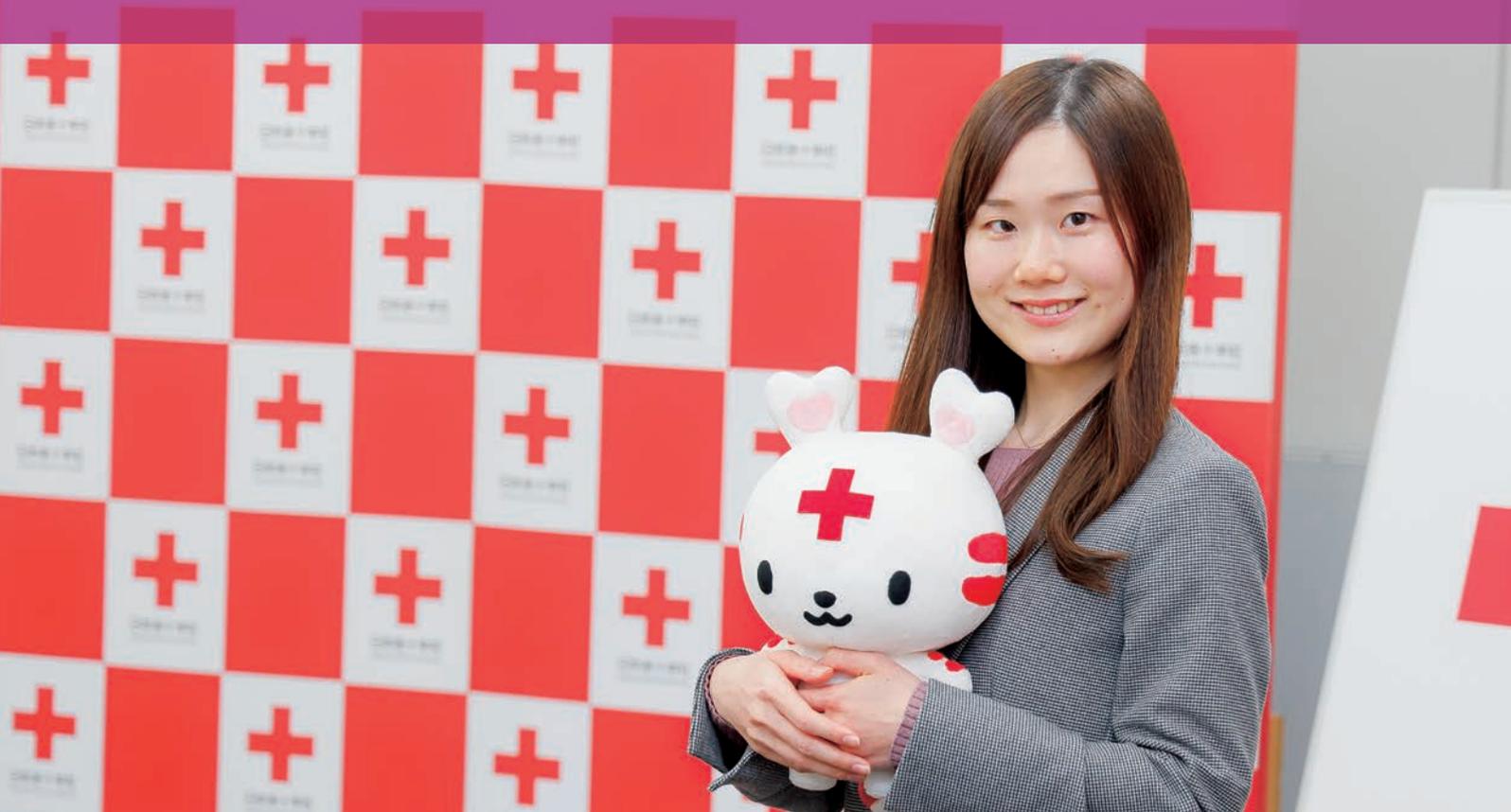
マスコミ業界での現場経験が豊富な先生方から、ジャーナリズムに関する知識を教えていただきました。



現在

入社して2年間、さまざまな経験をさせていただいています。これからも人との出会いを大切にしながら仕事に励みたいですね。

Life after Graduation



Graduate's Interview

日本赤十字社 滋賀県支部 勤務

Nonoka Matsuda

松田 野々夏さん

現代福祉学科 2021年卒業
(滋賀県立八日市高等学校 出身)

Q. 大学時代にはどのようなことに取り組んでいましたか？

大学では社会福祉学やソーシャルワーカーの技法、心理学・医学といった関連分野を幅広く学んでいました。福祉現場での実習のほか学外ボランティアにも取り組み、地域を支えようと奔走する多くの方々の努力を目の当たりにしてきました。それらの活動が自分自身の基盤となり、社会に貢献したいと強く思うようになりました。

Q. 大学での学びは現在の仕事にどう活かされていますか？

現在は県内で赤十字活動を展開している、「地域赤十字奉仕団」「青年赤十字奉仕団」を対象とした会議や研修会の開催をはじめ、ボランティアの活動を支援する業務をしています。実習や学外活動をとおして培った奉仕の精神、住みよいまちづくりにはボランティアの力が不可欠だと体感した経験は、仕事に結びついていると感じています。地域が抱える課題解決に向け、自分の役割を常に模索し実行していきたいです。

My Background



大学1・2年生

社会福祉学を中心に受講し視野を広げました。そのなかでも、基礎ゼミナールでプレゼンテーションした経験が印象に残っています。



大学3年生

社会福祉の現場を身近に感じる急性期病院や社会福祉協議会での実習は、福祉のあり方を考えるうえで大きな学びとなりました。



大学4年生

卒業生代表として、卒業証書を授与されました。4年間の大学生活の締めくくりとして、とても印象深い思い出です。



現在

大学での学びを活かせる仕事にやりがいを感じています。さまざまな立場の方と心を通わせ、社会課題の解決に努めていきたいです。

Careers



社会学部の資格・就職

資格取得状況

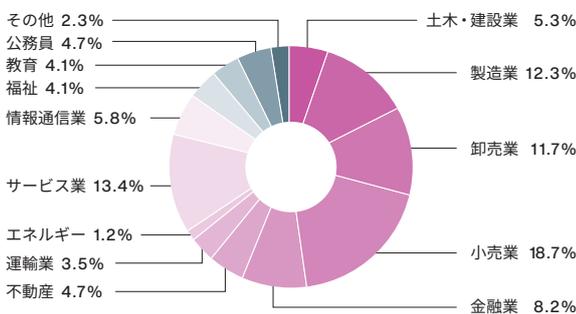
少子高齢化がすすむ現代社会において、福祉のプロフェッショナルを求める声が年々高まっています。現代福祉学科では社会福祉士などの資格取得をめざす学生が多く、合格率は常に全国平均を上回っており、優れた人材を輩出しています。

2022年度 第35回
社会学部 社会福祉士
国家試験合格率(新卒) **68.4%**

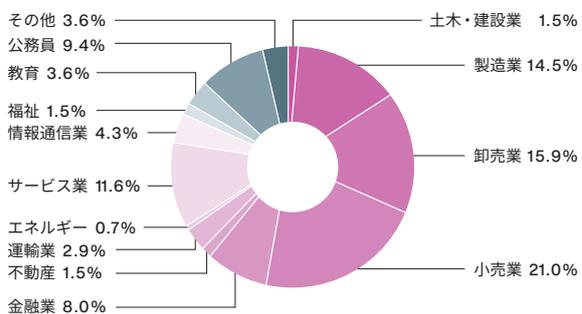
2022年度 第25回
社会学部 精神保健福祉士
国家試験合格率(新卒) **100.0%**

就職状況 (2021年度卒業生)

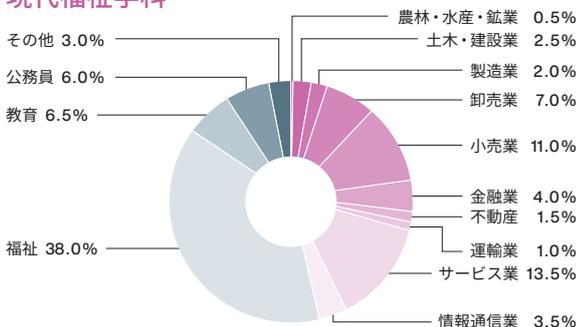
社会学科



コミュニティマネジメント学科



現代福祉学科



[主な就職先]

- 積水ハウス株式会社
- 株式会社キーエンス
- 山崎製パン株式会社
- アシックスジャパン株式会社
- 株式会社ニトリ
- 株式会社ファミリーマート
- 日本生命保険相互会社
- 西日本旅客鉄道株式会社 (JR西日本)
- 関西電力株式会社
- 医療法人医誠会 医誠会病院
- 医療法人東和会 第一東和会病院
- 社会福祉法人大阪市社会福祉協議会
- グッドタイムリビング株式会社
- 株式会社ベネッセスタイルケア
- 京都府教育委員会
- 厚生労働省
- 大津市役所
- 岡山県庁 など

※主な就職先は業種順に記載



全国農業協同組合連合会 (JA全農) 内定

地域連携型の共通科目「社会共生実習」がきっかけで内定先を志望しました。現場主義の実習で多世代の方と交流するなかで身についた愛嬌や、変化に柔軟に対応する力を、面接でも発揮できたように思います。今後も、大学で培ったコミュニケーションスキルや冷静な判断力を活かしながら、失敗を恐れずにチャレンジし続けたいです。

安原 拓真さん

社会学部 4年生
(大阪府立佐野高等学校 出身)



株式会社村田製作所 内定

多分野で活躍する方々とともに学生向けのプロジェクトを運営する実習があり、そこで身についた「積極的に発言し行動する姿勢」が、就職活動のグループディスカッションで大いに役立ちました。職場でも円滑なコミュニケーションを図りながら新しいことに挑戦していきます。そして世界にしあわせをお届けし、社会の発展に貢献したいです。

戸簾 紗弥香さん

コミュニティマネジメント学科 4年生
(滋賀県 近江兄弟社高等学校 出身)



社会福祉法人大阪市社会福祉協議会 内定

3年次の現場実習で社会福祉協議会の高齢者支援を学び、「自分も携わりたい」と志望しました。高齢者や子どもたちとの交流から、相手の立場になり目線をあわせて話す姿勢の大切さも学びました。その経験を仕事にも活かし、地域住民の方々と関係を築きながら、何歳になっても安心して住みやすい地域をつくっていききたいです。

永野 雄也さん

現代福祉学科 4年生
(大阪府 常翔学園高等学校 出身)

龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、
将来の予測が難しい時代となっています。
いま必要なことは、「学び」を深めること。
「つながり」に目覚めること。
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。
それが、私たちが大切にしている
「自省利他」であり、「まごころ」です。
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、
より良い社会を構築するために。
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

龍谷大学 社会学部

あらゆる「壁」や「違い」を乗り越えるために、「まごころ」を持ち、
「人間・社会・自然」について深く考える人を育む。
それが、龍谷大学の教育のあり方です。

自分自身を省み、人の痛みに感応して、
他者を受け容れ理解する力を持つ。
人類が直面するリアルな課題と真摯に向き合う。
そして様々な学びを通じて本質を見極める目を養い、
自らの可能性を広げていきます。

瀬田
キャンパス

大津市瀬田大江町横谷 1-5
Tel 077-543-7760
shakai@ad.ryukoku.ac.jp

大阪、京都、兵庫から好アクセス
JR 京都 駅 → 約30分
JR 大阪 駅 → 約60分
JR 天王寺 駅 → 約67分
JR 三ノ宮 駅 → 約80分

深草
キャンパス

京都市伏見区深草塚本町 67

大阪、奈良、兵庫から好アクセス
JR 大阪 駅 → 約42分
京阪京橋 駅 → 約41分
近鉄奈良 駅 → 約43分
JR 三ノ宮 駅 → 約63分

2025年4月、社会学部は深草キャンパスに移転します。



<https://www.soc.ryukoku.ac.jp>

